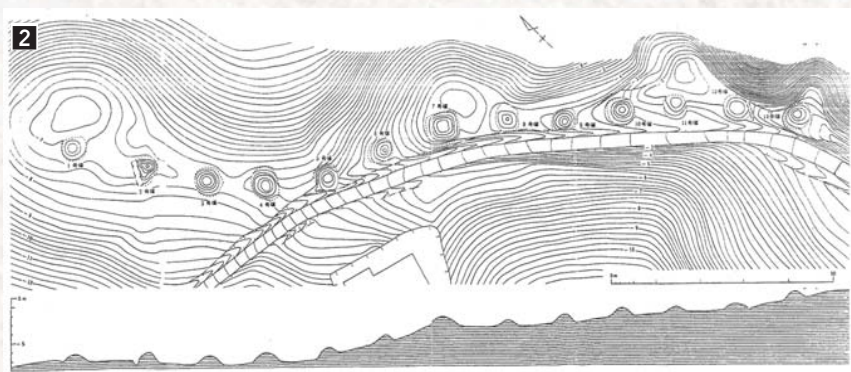




1 この地は通称丹波山^{たんばやま}といわれ、黒石寺の旧領であった黒石町字山内と字下柳の境界である。十三坊長根とも呼ばれ、かつて48坊あった黒石寺の坊のうち十三坊^{とむら}を^{とむら}った跡とも伝えられている

2 標高約50^{メートル}の丘陵の稜線上に総延長169.8^{メートル}にわたって塚が並ぶ。塚の立地や間隔から中央と両端の塚が最初に築かれたことが指摘されており、十三塚の構築方法を知る上で貴重な事例とされている



奥州遺産

―ときを越え
受け継がれるもの―
第116回

黒石の十三塚

Ⅱ 水沢黒石町字下柳 Ⅱ

市道下柳線沿いの丘陵に13基の塚が
一列に並んでいる。そこが特別な場所であることは一目瞭然である。塚に対する禁忌は厳しく、粗末に扱うことは強く戒められてきた。

十三塚は全国で確認されているが東北地方では岩手県と宮城県に多く、特に旧江刺郡には9カ所と密に分布している。しかし、それらの多くは開発により失われており、黒石の十三塚は、全ての塚が完存する最北の事例として、平成5年に国の重要有形民俗文化財に指定された。

最も大きな中央の塚は方形を呈し、ほかの塚は円形状であるなど十三塚築造の代表的な様式を見ることができる。中世の一時に流行した民間信仰上の遺跡と考えられ、十三仏信仰との関連が想定されているが、真実は歴史の中に埋もれ、伝えられていない。

しかし、今も大切に守られる黒石の十三塚は、私たちに、数百年前の人々の厚い信仰心を伝え続けている。

広 告

●広告の問い合わせは、(株)東広社 (☎ 0197-64-1523)